

[要旨]

自己免疫性膵炎はステロイド治療反応性がある膵炎で、近年日本を中心としてその概念が確立されてきた。

自己免疫性膵炎はいわゆる腫瘍形成性膵炎の臨床像を呈し、膵癌との鑑別が必要な場合があり、生検診断が有用である可能性がある。

よって、病理関係者はその病態及び組織像を理解する必要があると考える。

今回、機会を得たので自己免疫性膵炎の歴史や背景から組織学的特徴及び癌との生検鑑別に関して講演させていただく予定である。

膵生検は切除可能な膵病変に対して施行されることは現在のところ少ないと思われるが、当院は進行癌の治療前に膵生検及び針洗浄細胞診を施行しており、それらの知見を加えながら皆様のご意見を賜りたいと考える。